

(2) 講 評

○委員長 それでは、講評に移りたいと思います。

先生方と内容について確認をさせていただきました。結論から申しますと、この研究をぜひ実施していただきたいということになります。

それから、測地分科会のほうで指摘があった、5年は長いのではないかということに関しましても、適切な御回答をいただきましたので、実際の観測も含めて5年間ということですので、それをしっかりやっていただきたいということ、それから、地理院で行う調査、観測にどんどん利用していただきたいということです。

それから、先ほどもちょっと質問が出ましたように、日本のメーカーのほうに関しましては、ぜひ協力関係を打診したり、情報交換をするなどして、日本のメーカーも使える、あるいはその方向に動かすぐらいのつもりでやっていただければと思います。

それから、小型のSARも含めて日進月歩の技術でありますので、それを積極的に取り入れつつ、研究期間は5年ですけれども、新たなものをどんどん作って行って、実際にこの5年間で起きた事象に対しても、積極的に利用するというを更に進めていただければと思います。

委員の中で話が出たのですが、人員体制がこれで十分でしょうかということです。この人数が現有だということで伺っていますので、これをちゃんと確保して、この研究が迅速に行えるように、人員の確保というか、現在確保されている人員がきちっと研究に携われるような体制づくりをお願いしたいと思います。

以上です。

先生方、このような形でよろしいでしょうか。

それでは、私からの講評は以上とさせていただきます。